

家 庭

1 学習評価の改善・充実

(1) 学習評価の改善の基本的な考え方

学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものであり、生徒の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、学習評価の在り方が極めて重要である。

また、新学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っており、学習評価を真に意味のあるものとし、指導と評価の一体化を実現することが必要である。

学習評価の改善の基本的な方向性は、次のとおりである。

- | |
|-------------------------------------------------|
| ① 生徒の学習改善につながるものにしていくこと |
| ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと |
| ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと |

(2) 評価の観点及びその趣旨

【専門教科「家庭」における評価の観点及びその趣旨】

観 点	趣 旨
知識・技術	生活産業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

(3) 評価規準の設定

評価規準の作成の手順については、次のとおりとする。

- ① 学習指導要領に示された教科の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解する。
- ② 教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえ、科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」を作成する。
- ③ 家庭科における〔指導項目〕と「評価の観点」との関係を確認し、観点ごとのポイントを踏まえ、「〔指導項目〕ごとの評価規準」を作成する。

また、単元の評価規準を作成する際には、指導項目を小項目ごと等、いくつか分割して単元とする場合や、指導項目をそのまま単元とする場合、いくつかの指導項目を組

み合わせて単元とする場合等、様々な状況が考えられる。各学校において、生徒の興味・関心や進路、学科の特色に応じて適切に単元を設定することに留意する必要がある。

(4) 観点別学習状況の評価についての実施上の留意点

教科・科目の目標や内容等から「学びに向かう力、人間性等」など、数値的な評価になじまないものについては、観点別学習状況の評価や評定は行わず、学習の状況や成果などを踏まえて、総合所見及び指導上参考となる諸事項に所見等を端的に記述するなど、評価の在り方等について工夫する必要がある。

また、評価の焦点化を図り、効果的・効率的な学習評価を進めるため、「指導に生かす評価」と「記録に用いる評価」の二つの視点から学習評価を捉えることや、観点別学習状況の評価を実施するに当たり、生徒や保護者に対して評価に関する情報をより積極的に提供し、理解を得ることなどに留意することが大切である。

(5) 観点別学習状況の総括の進め方

観点別学習状況の評価に係る記録の総括を行う際、観点別学習状況の評価に係る記録が、観点ごとに複数ある場合は、評価結果のA、B、Cの数を基に総括する方法と、評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて総括する方法などが考えられる。

【評価結果を総括する方法】

数を基に総括する方法	数値に置き換えて総括する方法
例：「A B B」⇒B	総括の結果をBとする範囲を [2.5≥平均値≥1.5] と設定した場合
※ 総括の仕方をあらかじめ 各学校において決めておく	「A・B・B」= [(3+2+2)÷3] = 約2.3⇒B

【単元における評価の総括例】

- 小単元における観点の評価を
A = 3点 B = 2点 C = 1点 に置き換える。
また、確認テストや定期考査の達成率を
80%以上 : A = 3点、
50%以上80%未満 : B = 2点、
50%未満 : C = 1点 に置き換える。
- 算出方法を次のとおりとする。
(学習過程における評価+確認テストの評価+定期考査の評価×2) ÷
(学習過程における評価の回数+確認テストの回数+定期考査の回数×2)
「知識・技能」の場合
{(2+3+2+3+2×2) ÷ (3+1+1×2)} = 2.3
- 総括の結果をBとする範囲を1.5≤平均値≤2.5とする。
「知識・技能」の場合
1.5≤2.3≤2.5となるので「知識・技能」総括の結果はBとなる。

今回は点数に2倍の重みを付けて評価する

数値に置き換える

単位時間	学習内容	知			思			態		
1・2	介護保険制度	○	B	2	○	B	2			
3・4	高齢者支援と制度・課題				○	B	2	○	A	3
5・6・7・8	介護実習	○	A	3	○	A	3			
9・10	生活支援の考え方	○	A	3				○	A	3
確認テスト（正答数/問題数の割合による評価）		89%=A：3点			89%=A：3点			100%=A：3点		
定期考査（正答数/問題数の割合による評価）		75%=B：2点			86%=A：3点			83%=A：3点		
※今回は点数に2倍の重みを付けて評価する。		(B：4点)			(A：6点)			(A：6点)		
単元の評価		2.5 B			2.7 A			3.0 A		

【割合による評価の例】

定期考査で評価する観点：「知識・技術」
「知識・技術」を問う問題全8問のうち、
6問が正解であった場合
(正答率) 6問÷8問×100=75%

※総括評価では、定期考査に重みを付ける方法、単元の学習目標に照らし合わせながら、生徒に身に付けさせたい力がどの程度身に付いているか、特に評価したいと考える観点到に重みを付けするなどして評価する。

評定は各教科・科目の学習の状況を総括的に評価するものであり、観点別学習状況において掲げられた観点是、分析的な評価を行うものとして、基本的な要素となるものであることに十分留意する。その際、評定の適切な決定方法等については、各学校において定めることとなっている。

【学年末における評価の総括の例】

領域	領域名		知		思		態	
(1)	健康と生活		A	3	B	2	A	3
(2)	高齢者の自立生活支援と介護		B	2	B	2	B	2
(3)	高齢者福祉の制度とサービス		A	3	A	3	A	3
(4)	生活支援サービスと介護		A	3	B	2	A	3
評価	知識・理解	A	思考・判断・表現	B	主体的に学習に取り組む態度 A			
3つの観点の合計：8				評定：4				

【評価の合計から評定を算出する場合の例】

A=3点、B=2点、C=1点とし、
3つの観点の合計から判断する
(合計) 9点 → (評定) 5
8点・7点 → 4
6点・5点 → 3
4点 → 2
3点 → 1

【総合評価の組合せから評定を算出する方法の例】

(組合せ)：(評定)
AAA：5
AAB、ABB：4
BBB、BBC：3
BCC：2
CCC：1

単元の導入の段階では観点別の学習状況にばらつきが生じるとしても、単元末や学期末、学年末の結果として算出される3段階の観点別学習状況の評価については、観点ごとに大きな差を生じさせないために、指導と評価の取組を重ねながら授業を展開することが重要である。

2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

(1) 単元の指導計画例（「生活と福祉」）

科目「生活と福祉（４）生活支援サービスと介護の実習」における学習指導と評価の計画例を次に示す。

ア 単元の目標

- (ア) 生活支援サービス と介護の実習について、家事援助や基本的な介護技術を身に付ける。
- (イ) 生活支援サービスと介護の実習に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。
- (ウ) 生活支援サービスと介護の実習について自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立支援に主体的かつ協働的に取り組む。

イ 単元の評価規準

単元の評価規準については、次のとおりである。

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活支援サービスと介護の実習について、家事援助や基本的な介護技術を身に付けている。	生活支援サービスと介護の実習に関する課題を発見し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	生活支援サービスと介護の実習について自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立支援に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

ウ 指導と評価の計画（15時間）

【「生活と福祉」（２）高齢者の自立支援と介護】

次程	内容	授業時間数
1	生活支援サービスの実習	1時間
2	介護の実習	10時間
3	レクリエーションの実習	4時間
		15時間

各単元における各授業時間の指導のねらい、生徒の学習活動及び重点、学習指導案、評価方法等は、次のとおりである。

また、体験学習などを行う科目についてはワークシート等を活用し、年間を通して生徒にどのような変容が見られたか、記録するなどの工夫が考えられる。

時間	指導のねらいと学習活動	評価	評価方法
1	<p>【指導のねらい】 高齢者にとって自立した生活を送るための介護とはどのようなものかを理解させる。</p> <p>【学習活動】 介護を要する高齢者には、生活の質の観点から、保健・医療・福祉の統合されたサービスが必要であることを理解し、その中でも介護が高齢者にとってどのような効果をもたらすかを確認する。</p>	知	知：ワークシート

時間	指導のねらいと学習活動	評価	評価方法
10	<p>【指導のねらい】</p> <p>実習に際しては、安全に十分配慮して行う。また、介護技術については、介護する側と介護される側の立場をそれぞれ経験し、自立支援に向けた技術を身に付ける。</p> <p>【学習内容】</p> <p>「介護技術学習」</p> <p>高齢者に見られる心身の変化を理解し、状況に応じた移動、食事、ベットメイキングやシーツ交換、体位変換、おむつ交換、身体の清潔法等の基礎的な介護技術を知る。</p>	知	知：学習支援ソフト、行動観察
4	<p>【指導のねらい】</p> <p>高齢者がレクリエーションを行うことの意義や効果を理解し、高齢期の心身の状態に応じた効果的なレクリエーションの方法について実際に体験した上で、高齢者の状態に合わせた具体的なレクリエーションをグループで考えさせる。</p> <p>【学習内容】</p> <p>高齢者にとってのレクリエーションは、自立支援に向けた身体的、精神的機能の回復に役立つとともに、対人関係を広げ、社会性を取り戻すなどの意義があることを理解する。</p>	知 思	知：ワークシート 思：レクリエーション案


【学習指導案】

「介護技術実習」

1 目標

- (1) 高齢者向けおむつの性能や種類を理解し、おむつの役割を理解する。
- (2) おむつの装着方法、交換の手順を把握し、実際におむつ交換を体験する。

2 展開 (全10時間予定の4時間目)

過程	学習内容	生徒の学習活動	評価	指導上の留意点
導入	学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を確認する。 本時のねらいを確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 前時のワークシートを配付する。
展開	<p>おむつの性能</p> <p>おむつの種類</p> <p>おむつの装着方法</p> <p>おむつの装着体験</p> <p>おむつ交換方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> おむつの性能を理解する。 おむつの種類を理解する。  <ul style="list-style-type: none"> 講師によるおむつ装着の手順を見て覚える。 3人1組になり、おむつの装着体験をする。 ※介護者役と利用者役に分かれ、どちらも体験する。 講師によるおむつ交換の手順を確認する。 	<p>【知識・技能】</p> <p>おむつの性能、種類を理解し用途によって使い分けができる。</p> <p>(評価方法)</p> <p>ワークシート (学習支援ソフト)、観察</p> <p>【知識・技能】</p> <p>おむつの装着方法、交換の手順を把握し、おむつ交換ができる。</p> <p>(評価方法)</p> <p>観察</p> <p>ICTの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> おむつの性能や種類を理解するために、実物を用意する。 <p>【「努力を要する」と判断した生徒への手立て】</p> <p>手順を理解することが難しい生徒には、講師の見本を撮影した動画を見せたり、再度、手順を確認させたり、サポートを行う。また、グループの中で手順を理解している生徒がいる場合には、その生徒からのサポートも受けるよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師が行うおむつ装着の手順を動画撮影する。 各グループの装着体験を見回りながら、必要に応じてサポートする。 講師が行うおむつ交換の手順を動画撮影する。
まとめ	学習内容の振り返りと次時の確認	<ul style="list-style-type: none"> 本日の活動をグループで振り返る。 		<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を達成できたか確認する。 本時の活動の振り返りを学習支援ソフトで提出させる。

エ 評価問題等

【1年間を通じて活用できるワークシート記入例】

表面					1年間の目標	
将来、福祉の仕事に携わりたいと考えているので、高齢者や介護に関する基本的な事項をしっかりと学び身に付けたい。						
前期目標				後期目標		
高齢者の特徴を知り、介護の基礎知識を身に付ける。						
考査	点数	平均	自己評価 (授業内容の理解・授業への取り組み・身についたことなど)	確認印		
前期中間	72	学年	理解はできていたが、復習が足りなかったため、次回は余裕ができるくらい復習する。	生徒の変容 A:よく理解した B:だいたい理解した C:あまり理解できなかった D:理解できなかった		
		クラス				
前期期末	72	学年	授業で学習した内容を復習することで、授業内容の理解がより深まるようになった。高齢者を介護するためには、まず高齢者の心身の特徴を知ることが大切だということがよくわかった。	A:よく理解した B:だいたい理解した C:あまり理解できなかった D:理解できなかった		
		クラス				
後期期末		学年		A:よく理解した B:だいたい理解した C:あまり理解できなかった D:理解できなかった		
		クラス				
1年間の自己評価						
コメント						

オリエンテーションでワークシートを配付し、学習に対する「1年間の目標」と「前期目標」を記入させ、学習に対する意欲を高める。

定期考査ごとに「点数」「平均点」「自己評価」を記入させ、自らの学びを今後の学習に生かすよう促す。

「1年間の自己評価」欄は、年度の最後の授業で記入させる。

裏面					今年度学ぶ内容	
健康の概念	目標	健康に生活するための方法を知る。	自己評価 (5・4・3・2・1)			
	学んだ内容	高齢期に健康な生活を送るための工夫について	内容を理解することができた	4		
	感想	生活習慣の予防など、高齢期に至るまでには多くの課題があることがわかった。 生活習慣の予防など、高齢期に至るまでには多くの課題があることがわかった。	新たな知識が身についた	5		
			自分の考えを書くことができた	3		
			授業に意欲的に取り組んだ	5		
ライフステージと健康管理	目標	介護予防の重要性について知る。	自己評価 (5・4・3・2・1)			
	学んだ内容	健康志向ブームや高齢社会等の社会の変化により、健康課題が異なっていることがわかった。	内容を理解することができた	5		
	感想	健康な生活には毎日の生活の見直しだけでなく、定期健康診断などで健康の異常の早期発見が重要であることがわかった。家族にも健康診断の受診を勧めようと思う。	新たな知識が身についた	5		
			自分の考えを書くことができた	5		
授業に意欲的に取り組んだ			5			

単元の学習が始まる前に今後の学習に対する「目標」を設定させる。

単元の学習終了後、自己評価させることで、現在までの学習成果を振り返らせることができる。

単元の学習終了後、「学んだ内容」、「感想」を記入させることで、単元の学習を振り返らせることができる。